

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	証券取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成18年6月6日
【事業年度】	第89期(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
【会社名】	株式会社琉球銀行
【英訳名】	Bank of The Ryukyus, Limited
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 大城 勇 夫
【本店の所在の場所】	沖縄県那覇市久茂地1丁目11番1号
【電話番号】	沖縄(098)866局1212番(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総合企画部長 金城 棟 啓
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田多町2丁目2番16号 株式会社琉球銀行総合企画部東京事務所
【電話番号】	東京(03)5296局8617番
【事務連絡者氏名】	東京支店長兼総合企画部東京事務所長 照 屋 正
【縦覧に供する場所】	株式会社琉球銀行東京支店 (東京都千代田区神田多町2丁目2番16号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 証券会員制法人福岡証券取引所 (福岡市中央区天神2丁目14番2号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成17年6月28日に提出いたしました第89期(自平成16年4月1日至平成17年3月31日)有価証券報告書の記載事項の一部に訂正を要する箇所がありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

1 業績等の概要

・キャッシュ・フロー

7 財政状態及び経営成績の分析

(1) 財政状態 (キャッシュ・フロー)

3 【訂正箇所】

訂正箇所には____を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

・キャッシュ・フロー

(訂正前)

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、779億71百万円減少し、335億61百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローは、コールローン等の増加による減少を主因に636億42百万円となり、前連結会計年度比1,250億16百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還による収入が減少したことから125億68百万円となり、前連結会計年度比347億30百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払による支出を主因に17億65百万円となり、前連結会計年度比23億72百万円の増加となりました。

(訂正後)

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、779億70百万円減少し、335億61百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローは、コールローン等の増加による減少を主因に636億42百万円となり、前連結会計年度比1,250億16百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還による収入が減少したことから125億68百万円となり、前連結会計年度比347億30百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払による支出を主因に17億65百万円となり、前連結会計年度比23億72百万円の増加となりました。

7【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 財政状態（キャッシュ・フロー）

（訂正前）

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、779億71百万円減少し、335億61百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、コールローン等の増加による減少を主因に636億42百万円となり、前連結会計年度比1,250億16百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還による収入が減少したことから125億68百万円となり、前連結会計年度比347億30百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払による支出を主因に17億65百万円となり、前連結会計年度比23億72百万円の増加となりました。

（訂正後）

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、779億70百万円減少し、335億61百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、コールローン等の増加による減少を主因に636億42百万円となり、前連結会計年度比1,250億16百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還による収入が減少したことから125億68百万円となり、前連結会計年度比347億30百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払による支出を主因に17億65百万円となり、前連結会計年度比23億72百万円の増加となりました。